



『ヤバいくらい成果が出る 人財教育の仕組み化』

松田幸之助（著）、吉川充秀（著、編集） あさ出版（2025/4/22）

ベストセラー“ヤバいシリーズ”の最新作。

現場で本当に使える「人が育つ仕組み」が、リアルに語られているのは圧巻です！

book review

【感想】

群馬県に本社を置く株式会社プリマベールは、小売・EC・整骨院・経営支援など多角的な事業を展開しながら、15期連続で増収増益という驚異的な成長を遂げてきました。

その原動力は「仕組み化」と「人材育成」を両立させる経営スタイルにあります。

本書は、前作『ヤバい仕組み化』に続く“ヤバいシリーズ”の続編であり、

今回は「人財教育」と「仕組み」にフォーカスしている一冊です。

実際に現場で機能する教育とマネジメントの仕掛けが、豊富な事例とともに紹介されています。

プリマベールが重視する成果の方程式は、**「戦略確率 × 実行確率」**

どんなに優れた戦略でも、実行されなければ成果は出ないという考えのもと、

報告→決定→実施→チェックという「決定サイクル」を徹底しており、社長は「決定とチェック」

社員は「実施と報告」と役割分担することで、戦略と現場でズレが生じないように仕組み化。

制度化された日報で現場の情報を集め、Chatwork とスプレッドシートを連携させたタスク管理で実行状況を“見える化”**社員の期限内実行率は 90%以上を維持しています。**

さらに、思考・行動傾向を可視化する EG(エマジェネティクス)を活用し、人材の特性に合わせた最適な教育や配置も実現。**定量・定性情報をバランスよく扱う会議体制も整備し、社長自身の意思決定を補完する仕組みまで設計されています。**

“自走”から“自創”へ——社員一人ひとりが考え、創造し、仕組みを磨いていく。

そのリアルな実践知が惜しみなく詰まった一冊です！

【以下引用】

・本書で最もお伝えしたいことは**「スキル・モチベーション・ベクトル(価値観)にアプローチして、人財教育を行うと、確実に成果が上がる」ということです**

・価値観を共有する思想教育は社長・事業部長が行い、スキルの教育は幹部や担当者が行う

・プリマベールでは、**経営計画書を仕組化経営の「扇の要」と位置づけています。**私たちは経営計画書を、ただの方針書ではなく「成果の出る経営計画書」に仕上げることに重視しています

仕組みを動かす「人」をどう育てるかにフォーカスした本書は、教育の考え方を方程式で解き明かし、実践的に解説。経営者はもちろん、教育に関わるすべての方におすすめの一冊です。